

山形大学附属博物館報 39

THE MUSEUM OF YAMAGATA UNIVERSITY

2013. 3

目 次

地図上に示された山形大学附属博物館の位置	八 木 浩 司 (1)
いつもどこかの博物館 1	佐 藤 琴 (3)
資料紹介—松平穆堂「碎啄同時」(さいたくどうじ) —	(5)
平成24年度事業報告	(6)

地図上に示された山形大学附属博物館の位置

八 木 浩 司 (附属博物館館長)

2002年から国土地理院発行の地形図には、国から指定された博物館や美術館にたいして記号でその位置が示されるようになりました。新しく加えられた博物館に対する地図記号は、ギリシャの神殿建築物を模した記号であるとされています。国土地理院の地図閲覧サイト「ウォッチズ」(<http://watchizu.gsi.go.jp/>)に示された最新の地形図では、山形大学小白川キャンパス内のまさにその位置に、博物館の地図記号が記されています(図1)。なお、同図幅には、小白川キャンパス全体に大学の記号が附されていますが、キャン



図1 地形図上に示された山形大学附属博物館(上が北)

国土交通省国土地理院地図閲覧サイト「ウォッチズ」(<http://watchizu.gsi.go.jp/>)画面を引用

パス内の建物それぞれには**学部とか%%センターとかの記載や記号は附されていません。ましてや地図記号が用意された図書館ですら、同図幅の山形大学小白川キャンパス内のその位置に示されていません。図書館の庇を借りて、まさに間借り状態の附属博物館であることから、大家さんの図書館には申し訳なく思うところですが、ちょっと誇らしくも感じられます。

「ウォッチズ」上で示される山形大学附属博物館の位置は、北緯38度14分47.3秒 東経140度20分56.7秒です。しかし、この値は2002年4月1日から適用された測地系で得られた値で、それ以前では現在よりも緯度で10秒小さい、東に13秒大きい値で示されていました。距離にして南に約300m、東に約400mのずれになります。もちろん、博物館の位置が実際にずれただけではありません。日本の地図を作る際に基準としていた回転楕円形とそれに基づく座標系を変更したことによって生じたものです。地表にある事物の位置は、想定された楕円体の中心からの角度である緯度、経度とその高度によって定義されます。これを地理座標系と呼びます。明治時代から2002年4月以前は、旧東京天文台の緯度経度を天体観測からもとめ、そこから地球が完全な回転楕円体(ベッセル楕円体:長半径6377397.155m, 扁平率1/299.152813)と仮定して決められた日本測地系を使っていました。2002年4月以降、人工衛星の軌道計算から逆算された回転楕円形(GRS80:長半径6378137m, 扁平率1/298.257222)に準拠した世界測地系(WGS1984に準拠したJGD2000)が使われています。GPSの測定結果など世界的にはGSR80に準拠した地理座標系が使われていたことから、微妙にずれた地理座標系が並立することで生ずる混乱を回

避するためこの大きな変更となった訳です。2002年以前の地形図から得られた緯度経度を、滑走路の位置として入力し飛行機が着陸しようとしたら大変なことが起こることは想像つきますよね。

地理座標系では、ある地域の位置を高度とともに正確に表現しています。しかし球面上の異なる二点間の距離や面積を測定するには、かなり煩雑な計算が必要となります。地図は、地図上で二点間の距離を測ることを簡単にする便利な道具であると言えます。しかし、ミカンの皮を真っ平らに伸ばすことが出来ないように、地図は球面である地表を二次元の平面に投影したもので、曲面を平面に投影する段階で、歪みが発生します。つまり地図上で測る距離が絶対に正確であるとは言いきれない状況があります。もちろん地図の縮尺ごとに、ずれがほとんど苦にならないような投影法が用いられています。

ところで地形図と地図という語が入り乱れてわかりにくいというおしかりを受けそうです。地形図は地図の一種であることは言うまでもありません。国土院発行の地図の内、その縮尺が1/5万～1/1万のものは、地表の形態・地形が詳しく表現されたものとして地形図というカテゴリーが与えられています。そのうち、1/2.5万、1/5万の地形図および1/20万地勢図はユニバーサル横メルカトル (UTM) 図法によって投影されています。メルカトル図法という語に聞き覚えがありませんか？ 地図帳の裏表紙に必ず出てきた世界地図です。この地図は、赤道を基準線としてそれに接するように円筒をおいて地表を投影したもので、赤道付近に比べ高緯度地域がやけに伸びたように描写された地図です。メルカトル図法は、地表を投影する円筒の接する基準線付近では歪みが小さい特徴を持つので、(南北の) 経線を基準線としてそれに接して円筒を置いて、中心線から東西3度ずつ6度の幅で投影したものが特にUTM図法と呼ばれます (図2)。西経180度から東に60帯で地球がカバーされ、日本は51帯から54帯に位置しています。北半球、南半球ごとに赤道から高緯度側に4度ごとにA～Vまでの符号が附されています。これに従って、1/20万地勢図「仙台」は、UT

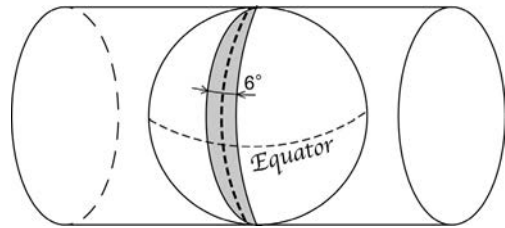
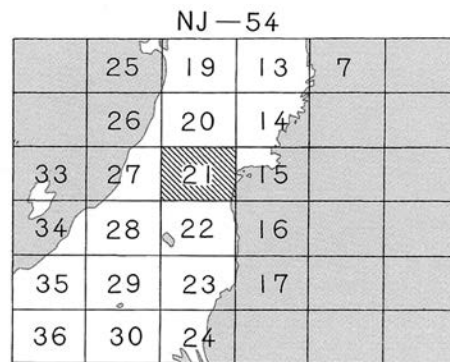


図2 ユニバーサル横メルカトル (UTM) 図法の投影概念

地球の経線に沿って接する円筒に6度幅で地表が投影される



1:200,000 地勢図 NJ-54-21 せんだい

図3 UTMコードに従った1/20万地勢図「仙台」の位置

網掛部21グリッドが「仙台」図幅にあたる日本地図センター発行「国土院発行地図一覧図」より

M54帯、北半球(N)、赤道から北に10番目(J)の緯線帯に位置することからNJ-54というコードが附されています。実際はさらにグリッド内を細分した位置番号21も付け加えられNJ-54-21と記されています (図3)。このコードの意味が分かれば漢字の読めない外国の方でもどのあたりに位置するかが判ることになります。このグリッドがさらに小さなグリッドに分割されて1/5万や1/2.5万地形図の図幅位置が決められています。山形大学小白川キャンパスが記された1/5万「山形」

表1 山形大学附属博物館の位置

	地理座標系		投影座標系	
	北緯	東経	X	Y
日本測地系	38° 14' 37.3秒	140° 21' 9.7秒	—	—
世界測地系	38° 14' 47.3秒	140° 20' 56.7秒	—	—
UTM	—	—	443032.564m	423372.397m
平面直角座標系	—	—	-42395.605m	-194532m

はNJ-54-21-11、そして1/2.5万「山形南部」はNJ-54-21-11-4と規定されています（図3参照）。

1/1万以上の大縮尺の地形図や国土基本図は、図上で出来る限り正確に距離が計測できるよう、平面直角座標系という投影法で作成されています。この投影法は、国土を地域ごとの19の座標系に分けそれぞれに原点を設定しその原点を基準としてその周辺地域について一種のUTM投影法で作成したものです。山形県は福島以外の東北4県と同じX系（座標系原点：東経140度50分0秒、北緯40度0分0秒、秋田県鹿角市・八幡平山麓の海拔840m地点）に含まれています。国土地理院発行の1/1万地形図「山形」をみると、図幅の周囲には、座標原点からの距離が1kmごとに示されています（図4）。ちなみに山形大学附属博物館の平面直角座標X系での位置（x,y）は、-42395.605m, -194532.041mとなります（表1）。

山形大学附属博物館の地理座標系での位置や平面直角座標系での位置は、以上のように定義されました。ただ我が博物館の位置が来年・2014年に

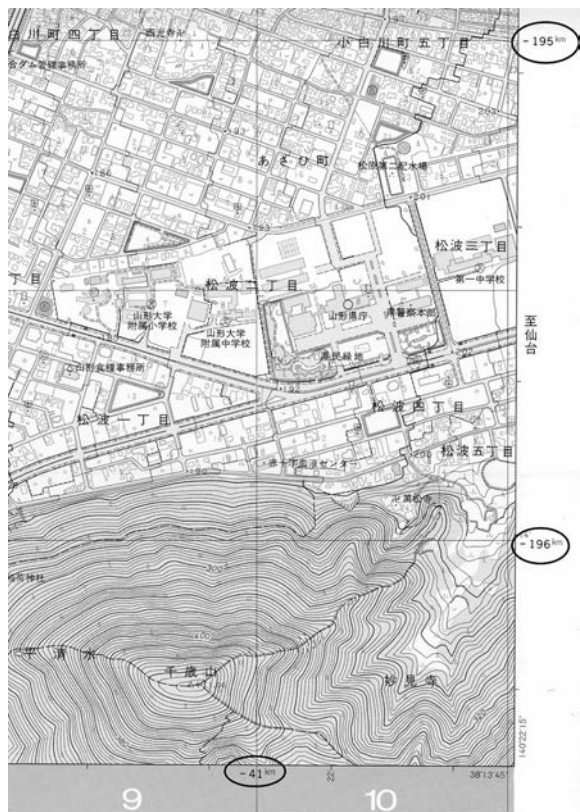


図4 1/1万地形図に表示された平面直角座標X系座標原点からの座標（距離）位置図の右および下の○で囲まれた数値国土地理院発行1/1万「山形」南西隅を縮小して表示

はまた変更になります。それは座標系の変更によるものではなく、附属博物館の絶対位置が移動することによるものです。附属博物館は平成26年度中には新しい建物に移転し、現在の位置から約50m西側（正門に面した人文学部西側）に移動することになりました。新しい博物館の立ち上げにご期待下さい。

いつもどこかの博物館 1

佐藤 琴 (学芸研究員)

2012年12月午前5時45分。私ははりまや橋で夜行バスを降りた。「よさこい祭り」でうたわれる「土佐高知のはりまや橋」である。現在のはりまや橋はオフィスビルや飲食店が密集する高知市のなかでも最も賑やかな界隈だ。だが、この時間には中央に路面電車のレールがある国道も時折自家用車が走り抜けるだけで歩道には誰も居ない。

キャリーを引きずり、事前にプリントアウトしておいた地図を見ながら街が目覚めるまでの時間を過ごす予定にしていた漫画喫茶を目指して歩く。仙台よりも幾分暖かな夜明け前の暗闇に包まれながら私は静かな達成感にひたっていた。何故ならこの瞬間をもって47都道府県の全てを踏破（徳島県と富山県は通過のみだが）したからだ。

高知までの交通手段に飛行機ではなく、大阪発の夜行バスを選んだのは時間と交通費の節約が主な目的であった。しかし、まだ足を踏み入れたことがない徳島県を通過できるという点も大きかった。

あらかじめ断っておくが私は決して旅行好きではない。にもかかわらず20年足らずで全県踏破を達成してしまったのは、仕事のために各地の博物館を見て回るという目的があったからに他ならない。

この原稿を書くために今まで訪れた博物館を数えあげてみたところ、100は優に越えていた。大学を卒業して最初の勤め先では博物館を新しく作る仕事に携わった。建物の実施設計からの参加だったため、博物館にはどのような設備が必要か、その参考とするために新設館のバックヤードなどを見て回った。博物館がオープンし学芸員としての仕事が本格的に始まると展覧会への出品交渉や貸し借りなどの仕事で美術館や博物館を訪れた。それだけではなく、休日にも興味のある展覧会を見て回った。山形大学に転職し博物館学を教えるようになってからは動物園、水族館、科学館なども行き先に加わった。

博物館を訪れた回数としては、大都市在住の展覧会ブロッガー（美術系の展覧会ファン。ブログでレビューを公開している方々）には及びもつかない。けれども、私は、一般来館者はもちろん、学芸員という立場とも少し違った観点で長年博物館を見てきた。この経験を基に博物館について思うことを何回かに分けて書いていこうと思う。

今回は博物館建築についてとりあげよう。

私は博物館学の授業において「博物館とは建物ではない、機関である」ことを最初に強調する。博物館とは古いものが並んでいる建物という一般的な認識を打ち砕くためである。しかし、来館者がものを見る空間は博物館を構成する重要な要素である。

博物館建築は大きく二つに分けられる。そのために新しい建物を建設する場合と既存の建物を使うケースだ。まず、既存建物の転用に当たっては、建物自体が展示物であるものとそうではない場合とがある。山形県内では文翔館（旧山形県庁及び議会庁舎）と旧米沢高等工業学校本館（山形大学工学部所在・東日本大震災の影響により現在内部非公開）が近代化の歴史を貴重な建物によって見ることができる素晴らしい博物館である。

一方、新築の場合は、特に美術館に著名な建築家が手がけたものが多い。今回私が紹介するのは1951年に開館した日本最初の公立近代美術館である神奈川県立近代美術館（鎌倉本館）である。設計者の坂倉準三（1901～1969）はル・コルビジエに師事し、1937年のパリ万国博覧会において設計した日本館でグランプリを獲得した日本近代建築史を代表する建築家である。

2012年9月、秋とは名ばかりの猛暑のなか、私はようやく訪れることができた。鎌倉駅から観光客で賑わう小町通りを歩くこと20分、土産物屋がなくなり、鶴岡八幡宮が森の西側を少し歩くと案内表示があり、それに従って右に曲がった瞬間、白く慎ましやかな建物が現れた。

左脇にある小さな窓口でチケットを買い、中央の階段で2階に登る。バリアフリーという概念がない頃の建物だから当然スロープもエレベーターもない。ケースももちろん密閉式のものではない。展示室の白い壁は長年の使用で痛みが目立つ。しかし、それが全く不快ではない。最近の大型館の広すぎる展示室には感じられない温もりと心地良さがあつた。程よい面積の展示室を出るとすぐに外壁のない空間となり、その脇に小さな喫茶室があつた。南向きの大きな窓には蓮池が広がっている。ここは鶴岡八幡宮の境内の池に面して建てられているのだ。



「この建物は手直しできなくてエアコンがつけられないんですよ。扇風機のそばに座ってください。」

窓際のテーブルに座っている男女に飲み物をサーブし終えた店主らしき女性が私を振り返って言う。勧められるままに入り口付近の椅子に座り、あたりを見回した。天井が高く、左手の窓から白いレースのカーテン越しに光と風がこれでもかというくらいに入ってくる。つられて上を見上げると喫茶室の天井の中央は少し下がっていて、私から見える面にはガラス窓がはめられていた。

「あの窓はなんですか？」

「あそこには受付の職員さんの休憩室があるんです。」

その答えを聞いてこの建物が居心地の良い理由が理解できた。

南向きの最も日当たりの良い場所を来館者だけではなく、美術館で働いている人々のために割り当てる。そんな話は聞いたことがない。

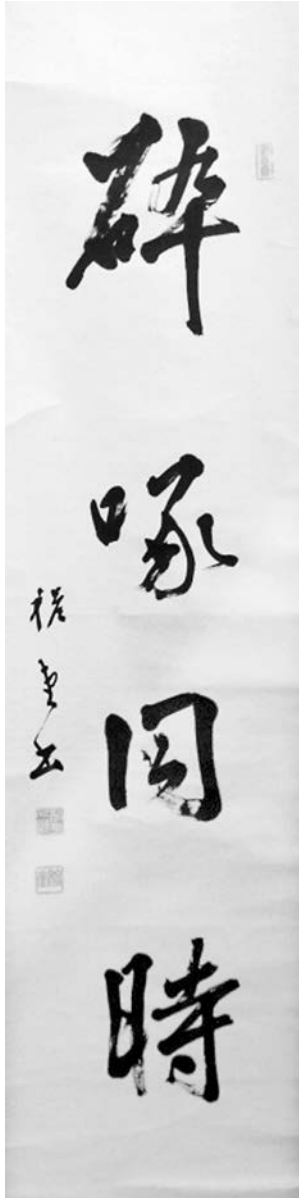
私が前職で博物館建設に携わっていた時は、建物を自分の作品としか考えていない設計者と何度も衝突した。視察した博物館も奇抜なデザインを見せつけるものばかりで、建築家とはそんなものかとはほとんど嫌気がさしていた。しかし、それもまた一方的な見方であったことを思い知った。

神奈川県立近代美術館〔鎌倉本館〕が建つこの土地は、2016年3月に返還期限を迎える。現在、神奈川県と鶴岡八幡宮と間で協議が行われているそうだ。日本の博物館建築の原点として是非とも存続してほしい美術館である。

資料紹介

松平穆堂

「碎啄同時」(さいたくどうじ)



紙本、全体189×44.2cm、昭和期

勢いよく書かれた「碎」、少し力を抜いて流れるような筆致の「啄」。「碎」の力強さと比べると、「啄」はつつましげな細さと小ささで書かれており柔らかな印象だ。「同時」がかっちりとおさまっているだけに、「碎」と「啄」の関係性が際立つ。書きなれた落款の「穆堂書」とあるように、この書を揮毫したのは鶴岡出身の書家松平穆堂(まつだいらぼくどう 1884-1962)である。

展覧会の中の本作

今年度特別展「書は人なり 博物館所蔵書道作品展」(平成24年11月5日~16日)では本作を含めた本館の所蔵書道作品と、新たに寄贈予定の居駒和雄氏(本学名誉教授)のコレクションの展示を

行った。書道は現代の筆記具に慣れ親しんだ私たちにとっては縁遠いものであるうえ、人によっては苦手意識を持つことが多い分野である。今回の特別展では外部からの来場者のほか、大学内の授業でも利用していただいたことで、不安視された来場者数も例年並みとなった。幸いにも書道に触れた学生の感想をきくことができたが、意外と学生たちに書道作品は好評だった。

なかでも一番の人気は明治末から大正期に活躍

した書家前田黙鳳(まえだもくほう 1853-1918)の作品(図1)である。黙鳳は漢籍(中国の書籍)を専門とする出版社を営んでいたが、明治末ころから書家に転身、中国に渡り篆書(てんしよ)や金文など古い字体にさかのぼって書体を研究した。この作品にも篆書から草書まで中国の古い字体が使われており、中国での書体研究の成果が発揮されているといえる。また、文字が絵的(日・月・目・心など)だったり、回転していたり(臨、轉)、鏡文字になっていた(之・臨・石・砥など)と暗号のような表現がなされており、見学者の大多数が読み解きに面白さを感じたようだ。この黙鳳の作品や屏風形式の大作が並ぶ特別展の会場内では、本作は目立つ作品ではなかったが注目する人が多かった。すっきりと整った作品の雰囲気や、「碎啄同時」の言葉の意味が特に好まれたようだ。



図1 前田黙鳳 《書》

「碎啄同時」とは

「碎啄同時」とは

「碎啄同時(さいたくどうじ)」(碎啄同時と書かれることが多い)とは、読んで字のごとく、卵の殻を破る雛鳥の動作[碎・啐]と生まれようとする様子を見計らって親鳥が殻をつつく[啄]のタイミングが一致すること。転じて修行者の機が熟したのを見て師が悟りのきっかけを与えるその一瞬のタイミングのことを指す言葉である。機が熟しても見合ったきっかけが与えられなければ次の段階へと成長しがたく、逆に未熟な学習者に不相应なほどの知識を与えようとしても学習者がそれを使いこなせない。ものごとの教授にはこの師と弟子の呼吸のタイミングが重要になる。特別展を見学した学生たちのアンケートには、教員を目指す「自分」にとって思い当たる節のある(あるいは目指したい)言葉だという感想があった。余談であるが特別展を見学に来られた某教授も、本作に見入っておられた。指導を受ける側も、指導する側も、「その時」

をとらえることの難しさと、反面、「その時」が生まれることの素晴らしさを実感しているのである。

穆堂の人物像

穆堂は羽黒町（現鶴岡市）松ヶ岡の塚原家に生まれた。本名は末吉。10歳のころ庄内随一の能書家であった黒崎研堂（1853-1928）に書道を学んだ。山形師範学校卒業後に鮭川村小学校の教員となったが、書道教育に専心したい気持ちがあり、合格に5年～10年かかるといわれる文検（文部省教員検定試験）を受験。わずか1年ほどで合格し、県内高等学校の教員となった。しかし書道の本場中国での研鑽の念は抑えきれなかったようで、大正5年から10年間青島高等女学校に勤務し、かたわら書法研究を重ねた。当時の書家にとって、中国に渡り多くの書の優品を観ること、在地の書家と交流することは憧れの機会であった。同時代の書道の大家も中国に渡り見聞を広めている。

帰国後は教職の傍ら鶴岡書道会を設立し書道教育の振興に尽力、昭和14年からは宮内庁図書寮に嘱託で勤務し皇統譜（天皇家における戸籍）などの官記に従事した。

彼の書道教育では、文部省の決まったテキストを使わず、手製の手本を配布した。教育への熱心さや、書家としての自信がうかがわれるエピソードである。自らの研鑽と、子供たちへの教育と、双方を長きにわたって続けてきた穆堂が本作の言葉を選んで書いているということは、彼の書道教育の一側面を語っているようで興味深い。

最後に、穆堂が残した「書道の要諦」という文章の中にある「よい字」の基準を引用したい。

- 一．気品の高い字がよろしい。
- 二．真剣味のある字がよろしい。
- 三．自分のものになった字がよろしい。
- 四．熟練した字がよろしい。
- 五．自然な字がよろしい。

穆堂の師であった研堂は「書の第一は気品にあり」とした人物だった。穆堂もまた碎啄の機を経た一人だったことがうかがわれる。

【参考文献】

- 『鶴岡市史』下巻 鶴岡市役所 昭和50年
『目で見える庄内書道史』春日儀夫 昭和53年
『禅語百選 今日に生きる人間への啓示』
松原泰道 祥伝社 平成3年
『松平穆堂先生と鶴岡書道会』
鶴岡書道会 庄内日報社 平成6年
『松平穆堂先生遺墨集』鶴岡書道会 平成16年
（附属博物館 鈴木 京）

平成24年度事業報告

平成24年度に本館で実施した博物館実習の単位修得者数は下記のとおり。

（単位：人）

学 部	人 数
人 文 学 部	2 5
地域教育文化学部	1 1
理 学 部	2 9
計	6 5

公開講座は昨年度大好評だった「掛軸のい・ろ・は」の第二弾が、受講者の熱烈な要望により実現した。昨年同様、実技などの企画が支持されて定員をこえる33名の受講となった。

特別展は、平成24年11月5日から11月16日まで「書は人なり 博物館所蔵書道作品展」と題し開催した。例年にも増して書道愛好者・書家の方々など、学外からの見学者が多く連日賑わった。

なお、公開講座の講師・演題及び特別展の詳細、その他の博物館で実施した事業については、博物館のホームページで随時、写真入りでお知らせしているので、是非ご覧ください。

平成23年度見学者総数

一般成人	個 人	5 9 7 人
	団 体	1 5 5
大 学 生	個 人	1,1 3 4
	団 体	3 4 7
児童・生徒	個 人	3 5
	団 体	3 0 7
合 計	個 人	1,7 6 6
	団 体	8 0 9
	総 数	2,5 7 5

※ オープンキャンパス・特別展の入場者は含まない

附属博物館では、所蔵品を授業等で利用していただけるよう、協力体制を整備しています。
お気軽に係員までご相談下さい。

山形大学附属博物館報 No.39 2013.3 発行
編集兼発行人 山形大学附属博物館
〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
(T E L) 023 (628) 4930 (直通)
(F A X) 023 (628) 4930
URL <http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/museum/>
E-MAIL hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp